2011 年度防災教育チャレンジプラン（内閣府）

平成 23 年度地域との連携を深める防災教育公開事業(千葉県)

千葉県立東金特別支援学校

防災発信・防災交流
～北之幸谷から二市四町へ～

自立をめざして、かがやく瞳、ひかる汗

校歌♪
「大空まで響く　明るい
笑い声は　輝く目
光る汗　ワッハッハ」
作詞・作曲　はなわ

【本校の概要（特色）】

知的障害を対象とした初の県立学校として昭和４８年４月に開校した。県内知的障害特別支援学校では唯一の寄宿舎設置校である。平成２３年度の児童生徒数は、小学部３８名、中学部３６名、高等部７９名、合計１５３名。知的障害を中心に、自閉症、肢体不自由、聴覚障害など他の障害を併せ持つ児童生徒の、多様な教育的ニーズをふまえて「輝く瞳光る汗」を合い言葉に、「チームワーク」と「創意工夫」による教育活動を展開している。

【３月１１日　地震発生後の様子】

地震発生時は、寄宿舎生徒と部活動生徒が学校で活動していた。また、スクールバスや自転車、ＪＲ利用の自主通学生徒等の下校時間と重なった。下校途中の生徒を連れ戻し、体育館に避難したが大きな余震があり、グラウンドへ避難した。テントを張り、車のライトで照らし、火を焚いて寒さをしのぎながら保護者への引き渡しを行った。

平成２３年度　千葉県立東金特別支援学校　防災教育の取り組み

プラン名：防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～

本校の学区：二市四町（東金市、山武市、芝山町、横芝光町、九十九里町、大網白里町）

本校は、海まで約８km、海抜約８ｍ、東金市は宮城県名取市と似た地形である。

プランの目的

○合同防災訓練を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。

○講演会や防災安全マップの作成等を通して、地域との情報の共有を図る。

○授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。

本校の実践と主な取り組み

地域と一体となった防災教育の推進を目指して、東金市、社会福祉協議会（市及び地区）、北之幸谷区自治会等に呼びかけて「防災教育担当者会議」を立ち上げ、地域・ＰＴＡ・学校の協働による防災教育に取り組んだ。

（１）授業を通して

美術（防災マルチパーテーションの作成）

国語・算数や保健体育（パーテーションの活用）

生活単元学習（災害に備えよう～自分の身を守るためにできること～）

作業学習（防災リュックや節電対策製品の作成）

家庭科（缶詰や保存食等を活用しての調理実習）

（２）児童生徒会活動を通して

被災地への支援で未使用のタオル集め

ＰＴＡと協力してシンポジウムでの義援金集め

防災安全マップの作成

地域のボランティア部会との炊き出し体験（８／２：本校）

（３）地域との合同防災行事を通して

防災シンポジウム　（８／２３：東金文化会館）

夜間合同防災訓練　（９／２６：寄宿舎）

地域との合同防災訓練　（１０／４：体育館及び各教室）

防災教育講演会（１０／５：体育館）

防災教育公開授業＜選択教科美術　自主通学生徒集会＞　（１０／５：体育館及び教室）

地域（消防団、子ども会）、ＰＴＡと合同防災訓練（１／２８：グラウンド及び体育館）

授業を通して①

【中学部の生活単元学習】

「災害に備えよう～自分の身を守るためにできること～」

○防災リュックの中に入っているものは？ また、その利用方法は？

○足りないものを買いに行こう

○非常持ち出し袋作り

○ＡＥＤについて知ろう　置き場所は？

【高等部作業学習製品（縫工班）】

○防災リュック

○ひえひえストール（節電対策製品）

【家庭科（調理実習）】

○レトルト食品や缶詰の利用

【高等部（特別活動）】

○防災授業　危機管理アドバイザー

　国崎信江先生より　１０／５

「災害から自分で自分の身を守るために」

・電車に乗っている時の体の向きは進行方向がよい

・体重の４倍ある物は危ない

・２階にいたら１階に降りない

・災害伝言ダイヤル１７１について　等

【高等部　自主通学生徒集会】

○震災時を思い出しながらブレーンストーミング

○具体的な場面設定でロールプレイング

○災害時に必要となるコミュニケーション手段の獲得

防災教育のポイント　～防災＝「命を守る」力を育てること～

①自分で考え判断そして行動へ

　自分で自分の身を守るために クロスロード等（想定にとらわれない　正解はない）

②行動するために知る

③防災、災害ボランティアを目指して　～地域とのつながりの中で（フェイス・トゥ・フェイス）～

授業を通して②＜防災マルチパーテーション＞

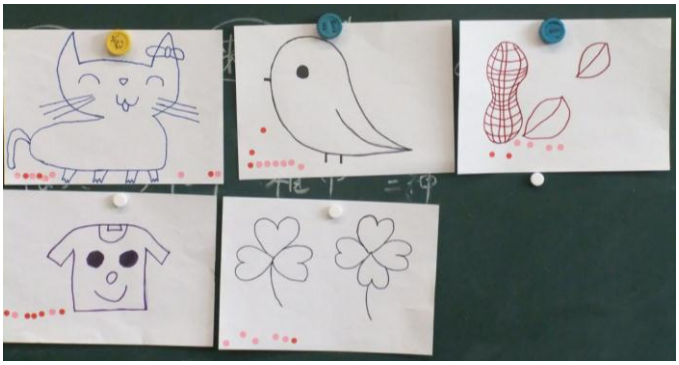
作成のポイント

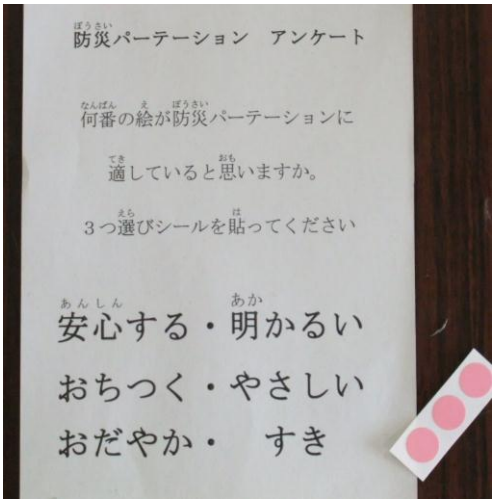
～普段の学習で使っているものを有事の際には避難場所で使用することで安心して過ごせるように～

・デザインは安心できる絵柄で

・イメージプロフィールで色合いを決める

・材質、強度、サイズ、収納の検討





教室で使用するサイズ

・集中できるように 児童生徒の視覚情報をさえぎる

教師は上から見て様子が分かる高さ

高さ１１５ｃｍ 横幅９０ｃｍ

運動や行事で使用するサイズ

・三輪車等の乗り物に乗った状態で

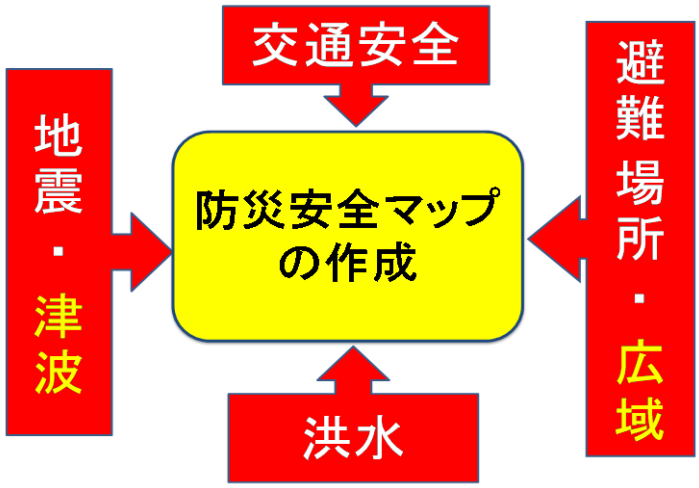
児童の頭が見える

高さ７８ｃｍ　横幅１８０ｃｍ

やまもも祭（学校祭）で小学部が活用

児童生徒会活動のテーマ「未来につなげよう東北＆東金」

　自分たちにできることを考えて話し合いました。
被災地支援として、未使用のタオル集め、東金市社会福祉協議会へ届けました。
　また、避難場所の確認をしたり、交通事故が多い場所を聞いたり、３０８年前に起こった元禄地震の大津波で亡くなられた方々のために建てられた津波供養碑を見に行ったりして「未来につなげよう北之幸谷防災安全マップ」を作りました。



　北之幸谷区ボランティア部会の方と炊き出しの体験をしました。献立は「炊き出しマニュアル（NPOcamper）」から選んでカレーライスを作りました。名札を付けてお互いの名前を覚えました。やり方を教わって、できることを分担して行いました。昔の学校の様子を聞くこともできました。
「一緒に作ったカレーは美味しかったです。」
「今後、地震や津波が起きた時に、今日のこの経験を活かして炊き出しなどができるとよいと思います。」

合同防災訓練①（寄宿舎で夜間９／２６）

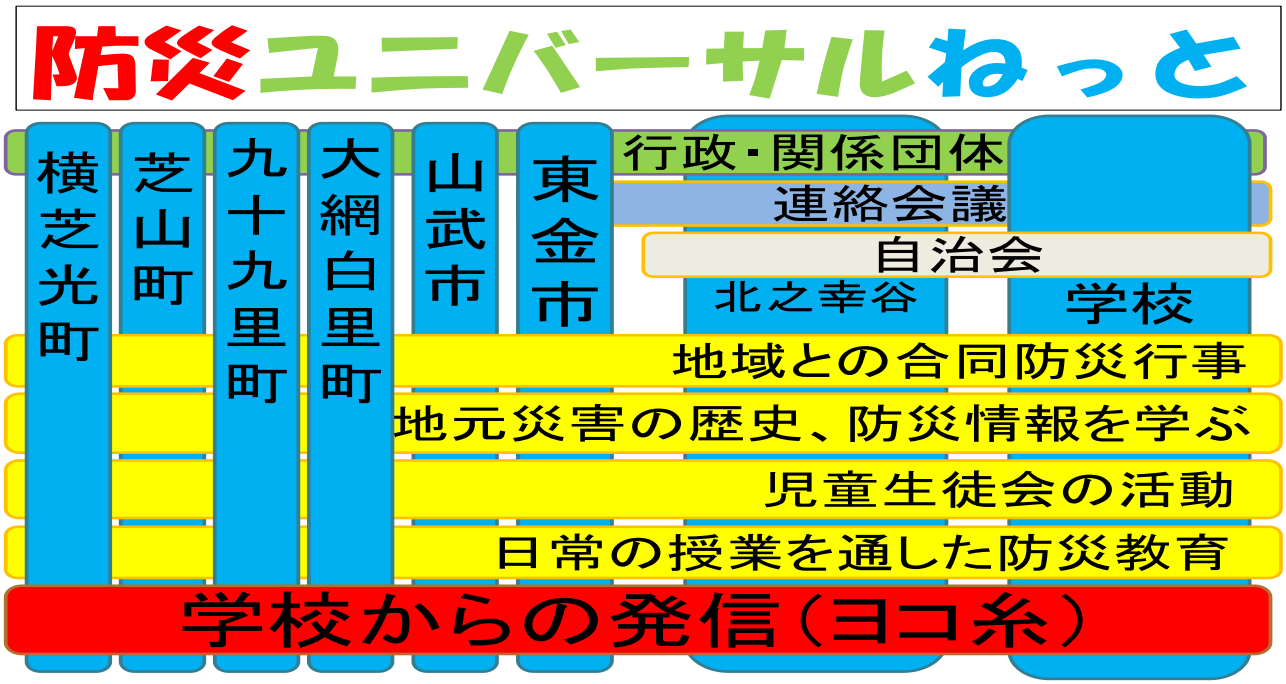
参加者：寄宿舎生徒　ボランティア部会　大学生
（地域に住む城西国際大学の学生が準備から参加）
〇自治会組織つばさ会の主導で
〇暗闇体験と感想発表
〇防災ゲーム
・避難の時に持っていくと役に立つ物は？
　＜たくさん考え出したグループが勝ち＞
・ラジカセから火が…何で消す？
　＜たくさんの方法を考えたグループが勝ち＞
・津波警報が出たら…
　遠くへ？高いところへ？どっちが正解？？
　自分の意見をもつ　たくさん考える　少ない意見を尊重する

合同防災訓練②（児童生徒会集会で防災集会１０／４）

参加者：全校児童生徒　長寿会（最高齢９２才）
　　ボランティア部会
〇縦割りグループによる交流
〇校内を指示書に従って防災関連グッズを探す
〇探しに行く途中に緊急地震速報（緊急地震速報利用者協議会）の音源を使用
　＜どこで流れ、どう行動したかの発表＞
「落ち着いて行動していて感心した」
「机の下にすぐにもぐっていた」
「わたしが入るために、椅子を出してくれた」
「地域の方と関われてよかった」
「また一緒に活動をしたい」　←　双方からの意見

合同防災訓練③（地域消防団の活動紹介１／２８土曜日）

参加者：全校児童生徒　保護者
　　子ども会　ボランティア部会
〇消防団による放水や消火訓練の体験
〇子ども会の学校探検
〇保護者への引き渡し訓練



地域の防災力を高めるための連携や防災に関する情報の共有と発信について、みんなで考える機会にしたいと考え、８月２３日に東金文化会館にて「防災シンポジウム ～みんなで考えよう地域防災～」の実施をした。地域の方々、自主防災会、教育関係（保育所から大学まで）、福祉関係、県・市議会等、約３３０名の参加があった。

○地元災害の歴史を学ぶ「元禄地震・大津波等から学ぶ防災について」
　元県立東金高等学校長　　郷土史・元禄地震に関する調査研究等多数　古山　豊　氏

○最新の取り組みから学ぶ「想定外を生き抜く力　命を守る主体的姿勢を与えた釜石市津波防災教育に学ぶ」
　群馬大学大学院　教授　片田　敏孝　氏

○地元の被災地支援報告から学ぶ「山武市の被災地支援ボランティア活動から 」
　山武市社会福祉協議会　ボランティア・市民活動センター　　須田　高　氏

○シンポジウム　震災からの困ったことや考えたこと、問題点を出し合って皆で考えていく機会とした。

○シンポジウムで「防災ユニバーサルねっと」についてアンケートを実施（回収１０２名）

・とてもよい、よい（８８％）　・よくわからない、未回答（１２％）
・とても関心がある、関心がある（７５％）　・あまり関心がない、未回答（２５％）
・８団体１個人の方が、「防災ユニバーサルねっと」への参加や協力を希望

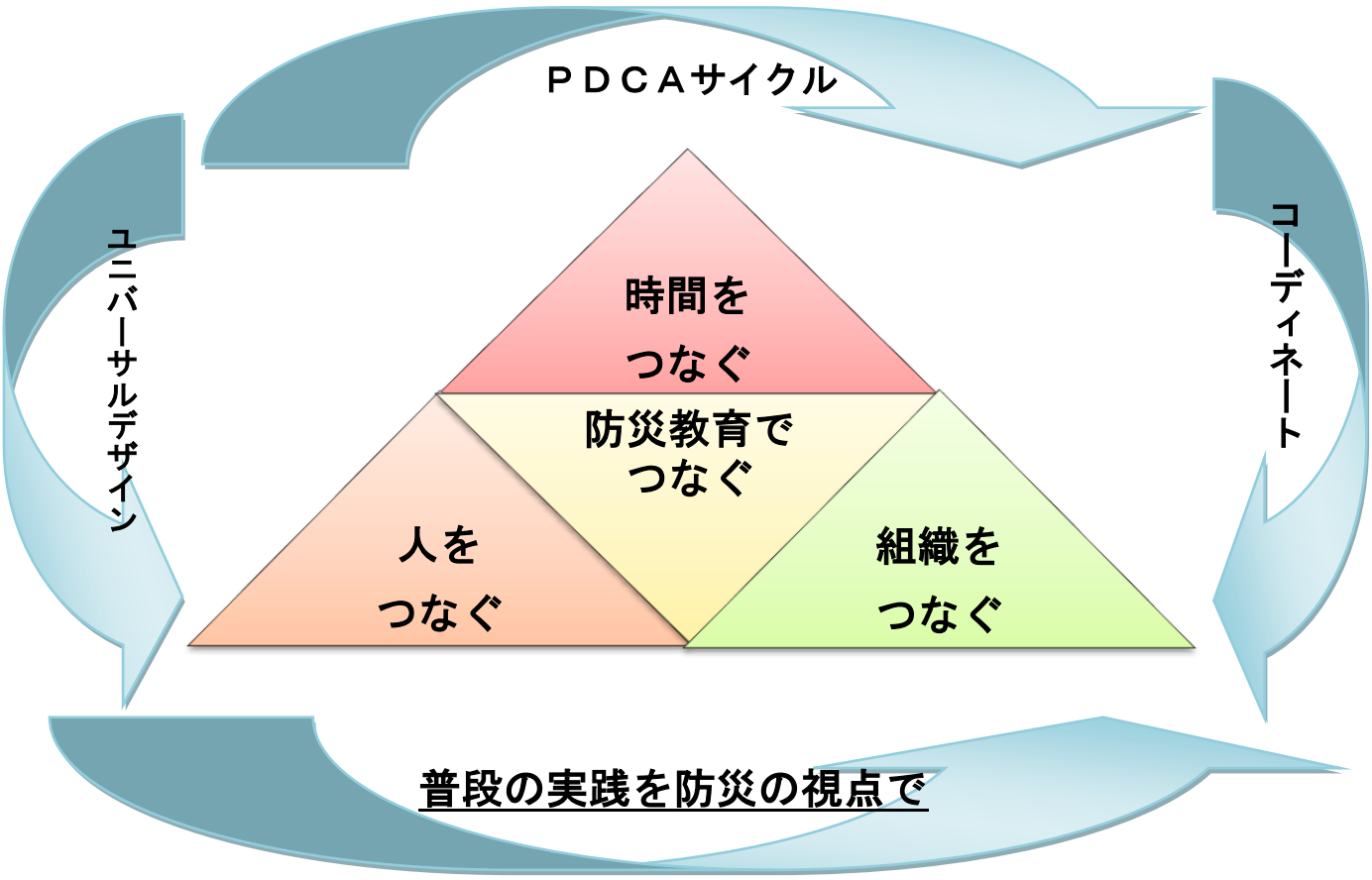
まとめと課題

（１）授業を通した取り組みについては、高等部の生徒を中心に、防災を身近な問題として取り組む機運が高まり、中学部の生活単元学習や全校集会での取り組みも始まった。来年度以降への継続が課題である。

（２）東金市、社会福祉協議会、北之幸谷区とのネットワークができ、地域と共に取り組む防災教育の足場はできつつあるが、学区の二市四町への働きかけを、九十九里版津波避難の手引作成に着手している県の出先機関である山武地域振興事務所や、要援護者支援について取り組んでいる山武圏域地域自立支援協議会につなぎ、ネットワークを広げていくことが課題となる。

（３）本校は東金市の避難所に指定されているが、具体的な避難所開設の手続きや必要な物資等の確保については未定の状態にある。今後、県教育委員会の指導をふまえて、東金市との協議を進めていきたい。

児童生徒会のテーマ＜～つなげよう～＞から思うこと

【防災ユニバーサルねっと】＜何をつなぐのか＞＜どういう視点でつなぐのか＞

〇過去～今～未来への（文化）
　時間をつなぐ
〇自分～家族～親戚や友だちや地域（ユニバーサルに）～チャレンジプランの仲間～
　人をつなぐ
〇学校～市役所～社会福祉協議会や地域自立支援協議会～県（地域）～
　組織をつなぐ
〇授業や行事を防災教育でつなぐ（普段実践していることを防災という視点で見直す）